

永江朗

読み解く

ベストセラーを

知の巨人2人が徹底討論で明かす 独裁的指導者の裏側と世界の闇!



悪の指導者(リーダー)論
山内昌之・佐藤優・著
907円 小学館新書

冷戦が終わった時、これからは民主主義の時代だと誰もが思った。ところが21世紀に入ると、世界は独裁者たちの時代になった。トランプやプーチンのように、民主的な選挙によって権力を握った指導者もいれば、北朝鮮の金正恩のように共産主義かつ世襲という独裁者もいる。

いったい、これはどういうことなのか。これから世界はどうなるのか。山内昌之と佐藤優による対談「悪の指導者論」は、わたしたちにとって思考の補助線となる好著である。

著者の組み合わせがおもしろい。山内昌之は中東事

気になるあの本この本

を説き明かしている。その好例がトランプだ。新聞等の報道だけ見ていると、エキセントリックで常道を逸した言動をする愚かな大統領のようにしか思えない。

アメリカでの支持率も低い。だが著者たちは、時代がトランプを欲したという側面に注目する。トランプに影響を与えた人物や、彼の商売人としてのマイノリティ、信仰なども分析すると、ヒステリックに絶叫しているだけの人間ではないことがわかる。

つい先日、トランプがイשראלの首都をエルサレムと認めたことは、中東だけでなく国際的にも大きな問題となっている。本書はトランプの発言以前に刊行されているが、この件についても、まるで予言したかのように書かれている。この一事を見ても、2人の分析力の確かさがわかる。

日本にとってもっとも切迫かつ切実な問題は、金正恩と北朝鮮の動向である。米朝対立が深刻化して武力

衝突となった時、何が起きるのか。在日米軍基地や日本の原発が攻撃対象となる可能性はあるのか。第二次朝鮮戦争から北朝鮮の滅亡、朝鮮半島が統一されると、北朝鮮の核兵器はどうなるのか。韓国が核保有国となる可能性の指摘は鋭い。

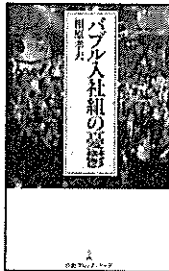
ところで、指導者たちの顔ぶれに「おや?」と思う読者もいるだろう。中国の習近平が入っていないからだ。それについて佐藤は、中国は習近平体制がますます強化されていくので、従来と大きな偏差はないだろうと語り、山内も同意する。逆にいうと、中国は世界でもっとも安定した独裁体制なのである。

ベルリンの壁が崩壊した時、現在のような未来を予測した人は少なかった。期待は裏切られ、予想は外れるものだ。しかし、時代がどう動いてもダメージを最小限にするためには、情報分析とシミュレーションは必要なのである。



警視庁公安部・青山望 一網打尽
濱嘉之・著
788円 文春文庫

京都の祇園祭で中韓マフィアの銃撃戦が発生。この抗争の背後には、北朝鮮のサイバーテロ、仮想通貨強奪計画があった。警視庁公安のエキス・青山が事件の闇に迫るシリーズ第10弾。



バブル入社組の憂鬱
相原孝夫・著
918円 日経プレミアシリーズ

バブル期の大量採用世代もアラフィフに突入。会社への忠誠心も強く、一根拠なき楽観」を抱える彼らは、今後の会社人生を生き残る道はあるのか。同世代の人事・組織コンサルタントがわかりやすく指南する。

ながえ・あきら 書評家「コラム」ラスト 58年、北海道生まれ。洋書輸入販売会社に勤務したのち、「玉島」などの編集者。ライターを経て93年よりライターに専念。「週刊朝日」「夕、ウイッチ」をはじめ、多くのメディアにて連載中。